

【送別登山の武甲山】

川越初雁会会長 岩堀弘明

山岳部の送別会は恒例で「武甲山」と決まっていたようで、お世話になった7回卒の先輩とは、晩秋の武甲山の山頂で夕食を共にすることになっていました。

ところがその日は私の兄の結婚式の日で、披露宴は午後から「料亭山屋」で多くのお客様をお招きして行うことになっていました。小なりとはいえ建設会社の跡継ぎの祝宴ですから、両親はかなり頑張って当日を迎えたわけです。

武甲山にはどうしても行かねばならない、と言い張る私を「仕方がないやつだな」ということで、兄をはじめ両親の許しも得られ、宴席を途中で退席し武甲山に行くことになりました。

宴席には魚や煮しめ等が賑やかに盛り付けられていました。お土産には瓶詰めの日本酒もあります。そこで私は出されたものをかき集め、お酒は要らないという人からは遠慮なく頂いてバッグに詰め、急いで同行する神田裕くんと共に武甲山に向かいました。

当日は好天気でしたが、生川を通過するころは既に秋の日は落ちてきておりました。その日は満月に近く、表参道は樹幹から漏れる月光で明るく快適でした。

すでに折詰の中身は腹の中で一本の瓶も空になりましたが神田君が「良い気分だ」というので、調子に乗り先輩にと思っていたもう一本にも手を付け、山頂につくころにはすっかり出来上がっていました。送別会は終盤になっての到着です。

部長の可児さんには事情をお話してはありましたが「遅いじゃないか」「なんだ、もうやってきたのか」などと、先輩からたしなめられたのは言うまでもありません。後にヒマラヤのマカルー、ジャヌーに登頂した市川章弘先輩のように紳士がおいになる7回の方がたには、申し訳なかった、という気持ちで一杯でした。

僅かな時間でしたが、後に山岳部OB会で一緒に山を歩いた藤野さんとは親しくお話をした事を記憶しています。

今にして思えばもつと先輩に近づいて指導して貰って良かったのに、との悔恨ばかりが残っております。